

第3回「2040 年に向けた我が国金融資本市場のビジョンについての懇談会」 ご議論いただきたい事項

2026 年8月 24 日

1. 清水教授からのプレゼンテーションを踏まえ 2040 年の我が国金融資本市場に関し、例えば以下の点についてどう考えるか。

(1)我が国は、豊富な家計金融資産を有し、今後大規模な産業基盤への成長資金需要が見込まれる。こうしたなか、(対外直投の果実の国内回帰に加え、)対内直接投資の拡大を通じた、対外・対内のバランスの取れた直接投資の姿を実現することが望ましい。このような状況を踏まえ、海外企業等による円建て資金需要等にも適切に対応できる、非居住者向け金融サービスの充実した国際金融資本市場を目指すべきか(非居住者による大型の円建て社債発行にもスムーズに対応可能な市場の形成など)。

(2)上記(1)を実現するためには、我が国資本市場にはどのような課題があると考えられるか。

2. 林委員からのプレゼンテーションを踏まえ、2040 年の我が国金融資本市場に関し、例えば以下の点についてどう考えるか。

(1)日本はトランジションファイナンスにおいて世界を先導する立場にあると言える。その優位性を活かし、引き続きトランジションファイナンスに係る議論を国際的にリードしつつ、我が国金融資本市場がアジアの中核拠点となることを目指すべきか。

(2)ESG/SDGs 債は、単に社会課題解決のための長期資金の調達手段にとどまらず、我が国社債市場の拡大や、多様なプレイヤー(発行者、投資家、運用業者、格付機関等)を呼び込み発展させる手段の一つとしても位置付けられるか。

以 上